



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

上場会社名 川辺株式会社
代表者 代表取締役社長 吉田 久和
(コード番号 8 1 2 3)
問合せ先 執行役員経営管理統括本部管理本部長
兼総務部長 五十川 幹雄
電話 03-3352-7110

平成29年3月期 個別経営成績の前事業年度実績値との差異に関するお知らせ

平成29年3月期決算における個別経営成績の前事業年度実績値との差異に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 29 年 3 月期 個別経営成績の前事業年度実績値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
平成 28 年 3 月期 (A)	16,136	536	605	377
平成 29 年 3 月期 (B)	16,119	557	619	520
増減額 (B-A)	△17	21	13	142
増 減 率	△0.1%	4.0%	2.3%	37.7%

2. 差異の理由

売上高につきましては、衣料品全般が低迷する中、ハンカチーフ市場はインバウンド需要の大幅な減少等から、厳しい環境下にありました。当社主要販売先である百貨店等において、市場占有率の拡張を引続き維持できたものの、年間の最大需要期であるホワイトDAY商戦の苦戦もあり、身の回り品事業としましては、前年比99.7%となりました。

フレグランス事業は、ブランド戦略としては、「プラダ」「アナスイ」のブティック向けの販売と、「サルヴァトーレフェラガモ」の新アイテムの投入が好調でありました。売上においてはホールセール部門における積極的な販売促進活動の実施により伸長し、百貨店に向けての初のメゾンブランドの投入も寄与しフレグランス事業の売上は前年比101.2%となりました。

利益面につきましては、身の回り品事業におきましては、ハンカチーフ商材のインバウンド需要の大幅な減少による影響がありましたが、正価品の販売が引続き好調であった事により、売上総利益が増加し、前期と比べ増益となりました。

フレグランス事業におきましては、売上の伸長と主力ブランドの価格改定を実施したことにより売買益率が伸長し、売上総利益も前年比104.0%の増益となりました。

以上の理由により、前期と比べ当事業年度におきましては、売上高△17百万円減収となり、営業利益21百万円、経常利益13百万円の増益となりました。

また当期純利益は前事業年度において、固定資産売却損益2億2百万円を計上した事から1億42百万円の増益となりました。

以 上